

デジタルアーカイブと その社会的活用

第4回

立命館大学 映像学部講義 (2021-05-10)

福田一史

<https://scrapbox.io/fukudakz/21デジタルアーカイブとその社会的活用>



コンテンツ

1. デジタルアーカイブの事例とそれらの連携（つづき）
2. デジタルアーカイブ活用ワークショップ

デジタルアーカイブの事例と それらの連携

ケース紹介とデータ流通

事例

- 1990年代後半ごろより、さまざまなデジタルアーカイブの実践が進められてきた。

デジタルアーカイブ リンク

- “二次利用がしやすいデジタルアーカイブ（国内の図書館） | 調べ方案内 | 国立国会図書館”.
https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-1044.php.
- “デジタルアーカイブ等の提供機関一覧”.
http://current.ndl.go.jp/files/research/2009/digital_archives_list.pdf.
- “我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性”.
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/houkokusho.pdf.
- “アンドラ デジタルアーカイブリンク”. <https://andla.jp/da/>.

デジタルアーカイブの情報流通

1. **デジタルアーカイブ**：図書館、博物館、美術館、文書館、企業、研究機関、政府、自治体などにより構築される
2. **ハブ**：分野・地域コミュニティがつなぎ役を担当
3. **統合ポータル**：国・地域ごとの統合ポータルサービス

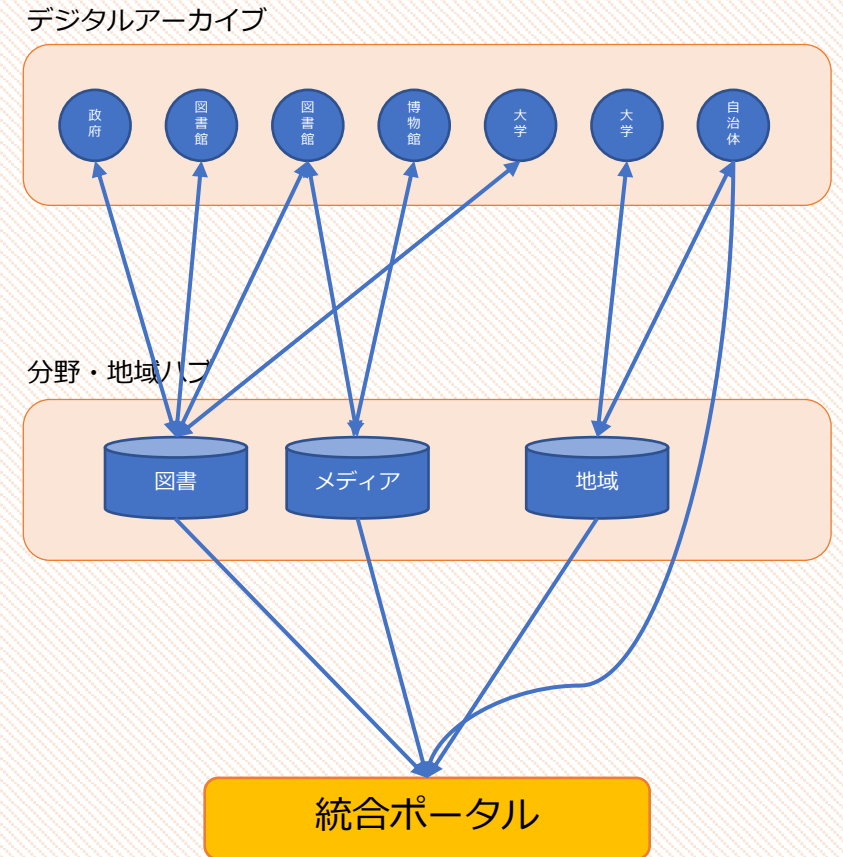


図. デジタルアーカイブ情報流通のイメージ

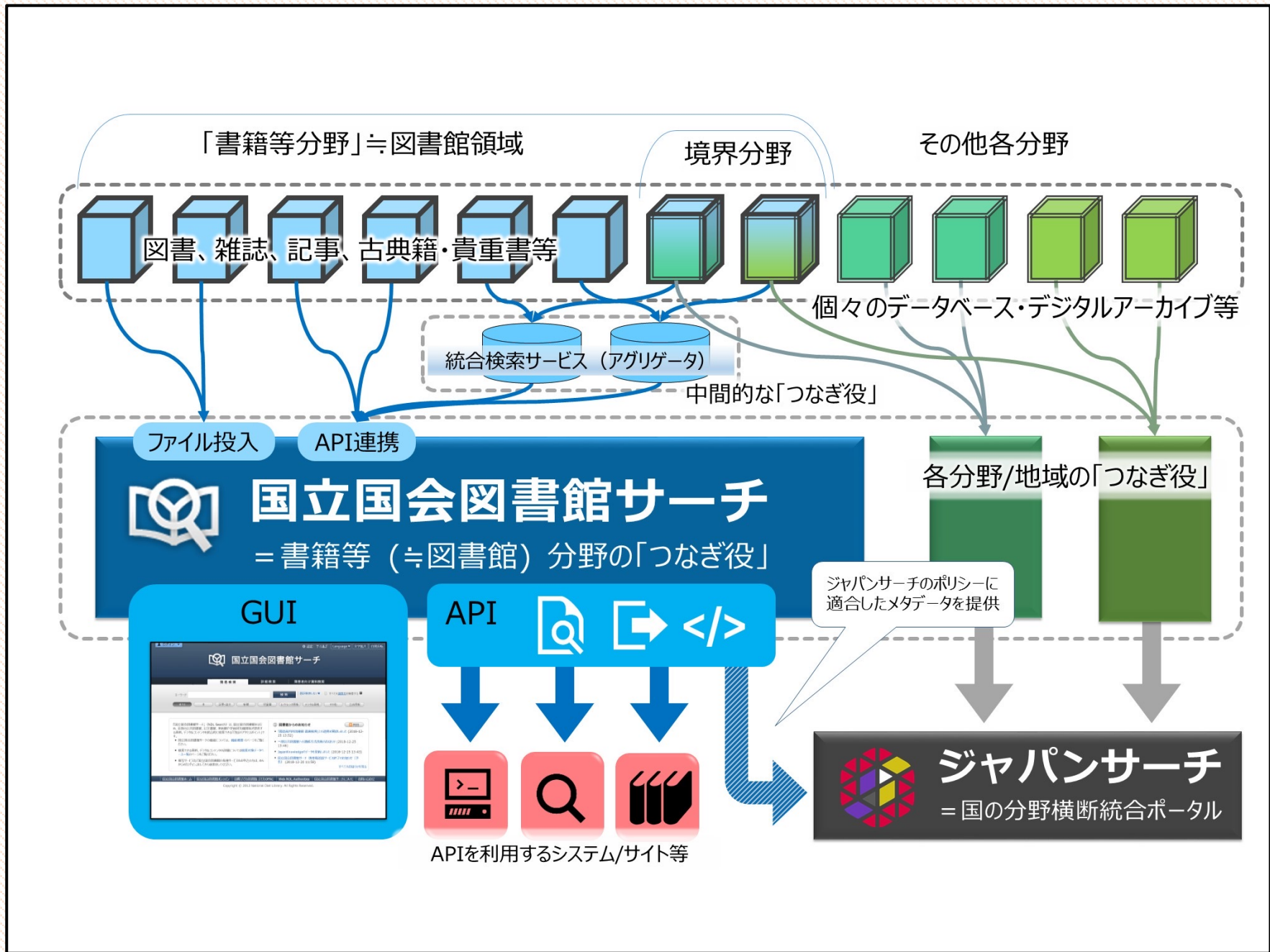


図. “ジャパンサーチへのデータ提供”. <https://iss.ndl.go.jp/information/renkei/jpsearch/>.

大阪市立図書館デジタルアーカイブ

- <http://image.oml.city.osaka.lg.jp/archive/>
- 「大阪市立図書館デジタルアーカイブとは、大阪市立中央図書館が所蔵している古文書や写真、絵はがき、地図などの貴重資料の画像閲覧サービスです。」
 - “デジタルアーカイブについて”
https://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=1635.
- 多くの公開コンテンツを含むアーカイブ（2017年3月～）として注目される。



図. 大阪市立図書館デジタルアーカイブ ウェブギャラリー

立命館大学アートリサーチセンター

- <https://www.arc.ritsumeikan.ac.jp/>
- 1998年設置。日本文化を対象とする複数のデータベースを公開し、海外の日本研究機関・日本資料所蔵機関と連携を進める。
 - 浮世絵ポータルデータベース. https://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_portal.php.
 - 古典籍ポータルデータベース. https://www.dh-jac.net/db1/books/search_portal.php.
 - データベースのリスト. <https://www.arc.ritsumeikan.ac.jp/j/database/>.



立命館大学アート・リサーチセンター
ARTRESEARCHCENTER, RITSUMEIKAN UNIVERSITY

図. アートリサーチセンター ロゴ

ハブ

- 分野・領域や地域のアーカイブのつなぎ役となるハブ。アグリゲーター。
- コミュニティのメタデータなどを整備・収集・集約し、API等によりデータを使いやすい形で公開する。
- 分野独自性を踏まえたデータ標準化や、統制語彙の構築、長期アクセス基盤の構築などの機能が期待される。
 - 文化遺産（e.g. [文化遺産オンライン](#)）、メディア芸術（e.g. [メディア芸術データベース](#)）、図書（e.g. [国立国会図書館サーチ](#)）、国立博物館（e.g. ColBase）、地域（e.g. [にいがた MALUI連携地域データベース](#)）など

文化遺産オンライン

- <https://bunka.nii.ac.jp/>
- 2004年より試験版、2008年より正式版が公開。
- 「文化遺産オンラインは、文化庁が運営する我が国の文化遺産についての電子情報広場（ポータルサイト）です。全国の博物館・美術館等から提供された作品や国宝・重要文化財など、さまざまな情報をご覧ください。」
 - “文化遺産オンライン”. <https://bunka.nii.ac.jp/>.

ColBase

- <https://colbase.nich.go.jp/>
- 2017年3月より公開
- 「ColBase: 国立文化財機構所蔵品統合検索システムは、国立文化財機構の4つの国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）と一つの研究所（奈良文化財研究所）の所蔵品を、横断的に検索できるサービスです。」
 - “ColBase”. <https://colbase.nich.go.jp/pages/about>.

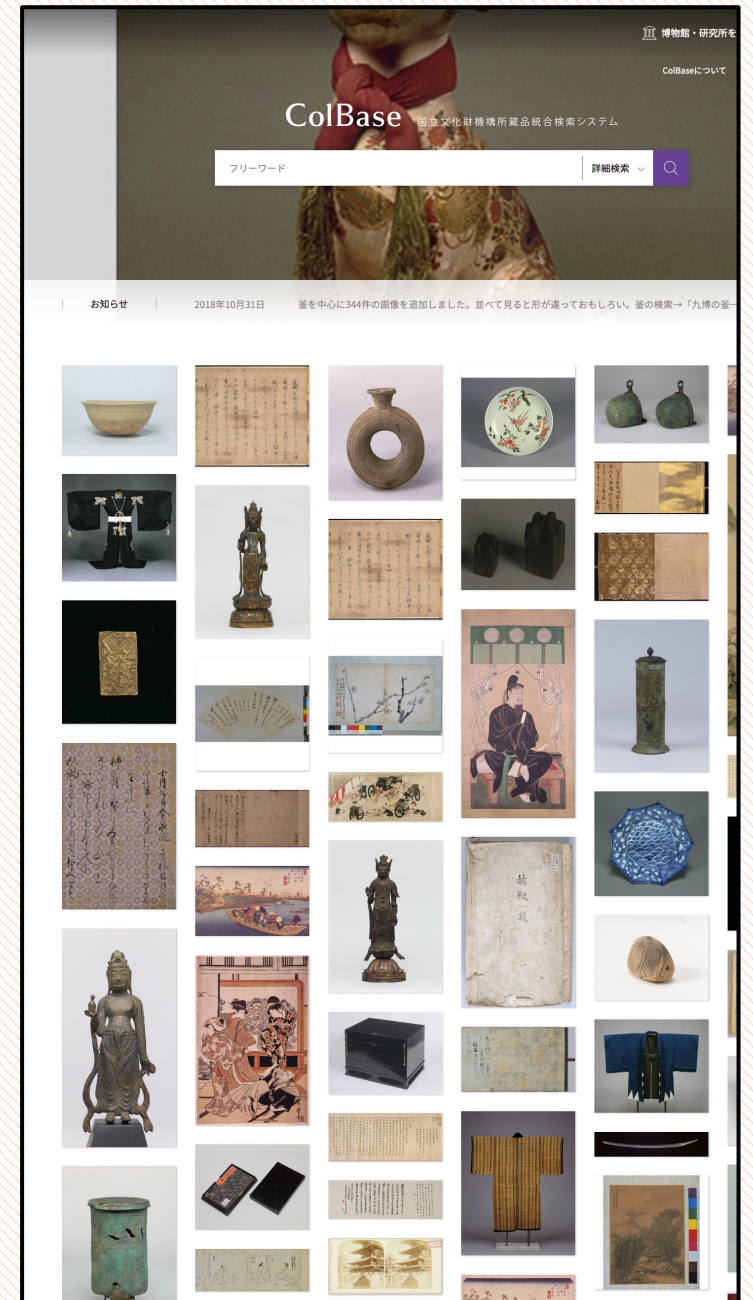


図. ColBaseトップページ. <https://colbase.nich.go.jp/>.

メディア芸術データベース

- <https://mediaarts-db.bunka.go.jp/>
- マンガ・アニメ・ゲーム・メディアアートの作品・所蔵情報のデータベース。
- 2015年より試験版、2019年よりベータ版が公開される。
- マンガ所蔵館やゲーム所蔵館などの協力機関の作成する書誌データを収集する他、独自に作品情報などを作成・整理し公開。



メディア芸術データベース ベータ版

統合ポータル

- 国や地域ごとのメタデータを集約し、検索サービスやデータ提供を行う。
- データオープン化やコンテンツの利用条件整備などを進める。
 - ヨーロッパ：Europeana
 - アメリカ：DPLA (Digital Public Library of America)
 - オーストラリア：[Trove](#)
 - ニュージーランド：[DigitalNZ](#)
 - 日本：Japan Search

Europeana

- <https://www.europeana.eu/>
- ヨーロッパ（EU）各地のアーカイブ機関が公開する文化資源のメタデータを収集し、公開するサービス。2008年から公開。43カ国約3,500機関より、5,400万件以上のデジタルコンテンツのメタデータが登録される。
 - “Europeana works with thousands of European archives, libraries and museums to share cultural heritage for enjoyment, education and research.” – About us | Europeana.
<https://www.europeana.eu/en/about-us>.
- Google Booksプロジェクトに対する欧州の危機感からプロジェクトがスタート。

Digital Public Library of America: DPLA

- <https://dp.la/>
- アメリカ各地の図書館・博物館・文書館などが有するデジタルコンテンツのメタデータを集約し、公開するサービス。2013年から公開。
- 16のコンテンツハブ、21のサービスハブを通じて1,500万件以上のデジタルコンテンツのメタデータを集約する。
 - 参考：塩崎亮, 佐藤健人, and 安藤大輝. 2015. “米国デジタル公共図書館 (DPLA)の過去・現在・未来.” カレントアウェアネス, no. 325 (September): 15–18. <https://ci.nii.ac.jp/naid/40020596481/>.

Japan Search

- 2020年8月から正式版リリース。
- 「ジャパンサーチは、書籍、文化財、メディア芸術など、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携して、我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる分野横断型統合ポータルです。約2,100万件のメタデータを検索することができます。内閣府をはじめとする関係省庁・機関等と連携・協力し、国立国会図書館が中心となって2017年から構築を進め、2019年2月の試験版公開を経て、今般の正式版公開に至りました。」
 - “ジャパンサーチ正式版を公開しました（付・プレスリリース）”。
https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2020/200825_02.html.
- “現在のデータ – ジャパンサーチ”. <https://jpsearch.go.jp/stats>.



JAPAN SEARCH

デジタルアーカイブ 活用ワークショップ

二次利用を支援する制度

ワークショップ

- 「ジャパンサーチ」を用いたワークショップ
- 6名前後のグループに分かれて、次スライドで提示するキーワードから1つ選択し、**バーチャル展示**としてマイノートを作成=**キュレーション**する。
- 翌週の講義でグループ毎に発表を行う。発表の要件は下記。
 - 形式：持ち時間最大3分、マイノートをスライド・Zoom画面で表示し報告
 - 1) **キュレーション・展示の具体的コンセプト**、2) **キュレーション作業中の気付き**、の2点を必ず報告内容に含めること
 - 作成したマイノート（JSONファイル）はTeamsにて次回講義の前日までに福田宛に送付すること。その際**役割付きのメンバーリスト**も合わせて送ること。

Tips

- マイノートで保存されるデータは一時的にブラウザに保存されるが、キャッシュが消されると消えてしまいます。同データを後日確実に利用するには、右上のメニュー (...) から「エクスポート」を選択し、ファイルとして保存しておく必要がある。
 - JSONファイルならエクスポートしたファイルをインポートすることも可能。
- 発表時は一つのマイノート (JSON) にまとめるのが適当だが、複数のファイルの組み合わせでも可とする。また、アイテムのURLでデータをまとめるというやり方も共同作業時は有効。
 - e.g. <https://jpsearch.go.jp/item/syozo-100292>
- メモなどのサービスで提供される機能の活用は加点対象。